

研究所探訪

人間文化研究所

松園 斉



文学部に附設されている人間文化研究所は、1982年に実質的な活動をスタートいたしました。文学部はその当初、宗教(後、宗教文化学科と改称)・心理・歴史の3学科で構成されていましたが、1986年に国際文化学科が、1988年に日本文化学科が増設され、5学科となり、現在に近い規模になりました。その後、2003年に心理学科が心身科学部として独立、4学科となりましたが、2007年グローバル英語学科が増設され、再び5学科として現在に至っています。

当研究所は、一般的にイメージされる、常勤の所員が施設内でデスクや実験施設で研究を日常的に行っているというものとは異なった形をとっています。5学科ある文学部の教員全員(50人ほど)が所員を兼ねており、その所員が行う研究をコーディネートするのが、研究所の役割といっても過言ではありません。一人でやるものから、複数名、同学科・同学部の所員同志で行ったり、さらに他学部、他大学のメンバーとともに比較的大きな研究プロジェクトとして行うものまで、さまざまな内容・規模の研究への予算の配分や研究会・講演会の企画、紀要・所報などの研究発表の場の提供を行うのがこの研究所の職務の重要な柱となっております。

また、個人の研究費や学科などでの予算では入手が難しい高価な書籍などの購入を援助し、それらを研究所や大学図書館を通して学内外の研究者に提供するばかりでなく、近年は文学部のもう一つの研究・展示施設である文学部博物館において、企画された展示などを通じて公開を行っています。

1984年に発刊された研究所の紀要『人間文化』は(当初は隔年刊)、昨年度で28号に至っており、毎号多くの研究論文や貴重な文献の翻刻・翻訳が掲載され、近年、Web上でも閲覧が可能となっております。また他の大学・研究所等とも紀要類の交換を行っており、数多く所蔵しておりますが、近年保管場所の不足や、Web上での公開が増えていることもあり、その規模を縮小しつつあります。

パソコン・スマートフォンやインターネットの普及によって、人文科学の分野での研究においても、その方法や公開の手段は劇的に変化しつつあります。私どもの研究所で積み上げてきた研究が一朝一夕に時代遅れのものになってしまうことはありませんが、せっかくこれまで積み上げてきた研究が死蔵されてしまうような状態では意味がありません。できるだけ柔軟にかつ積極的に研究を外に発信し、かつ生まれ出た研究の芽を確実に成長させるように環境を整えていく努力を怠らないようにしていきたいと思っております。